

個別活動 モンテッソーリ活動

大好きお仕事

二ドのモンテッソーリ活動



オプティックローラー
3種類の白と黒の幾何学模様のついたローラーです。低月齢から目で捉えることができ、手が当たるとローラーが回ります。



ベルハーモニー

手に届く長さに調整して吊り下げることで手を伸ばして掴んで音を鳴らします。視覚・触覚・聴覚の発達を促します。自分で触れて音が鳴ることで環境に働きかけ、環境が変えられるという経験に繋がります。

I Cのモンテッソーリ活動



みずやり

身の回りの植物にじょうろで水をあげます。自立性の発達を援助し知性・意思・手の動きの統合をもたらします。



シール貼り

シールを台紙に描かれた枠内に貼っていくお仕事です。最初はバラバラに貼っていても次第に枠を意識しながら貼れるようになります。目と手の協応を促します。

プライマリーのモンテッソーリ活動

春、園庭には色とりどりのチューリップやパンジーが咲いていて、子ども達は「花の水替え」のお仕事を楽しみにしています。まずはハサミとお盆を持って庭のテラスへ。好きな花を選び、花首から茎の根元を探し、そっとハサミで切ります。たまにミツバチが飛んで来て、驚いたり、細かく羽を動かし浮遊する様子に見いたりしています。黒々としたアゲハチョウが現れて、宙を舞う姿に、息をのむ事もあります。部屋に戻ると、今度はうつわを選びます。特に青バッチさんは「チューリップには細長い花瓶、パンジーは手の平にのるような小さな瓶に」と、寸法をよく考えています。また日が経つと「あれ、お水が減っている、花が水を飲んだんだね」「もう少しお水を足しておこう」「花びらがカサカサになってとれちゃった」と、色々な変化に気がきます。子ども達はお仕事を通して、園庭の小さな自然から、大切なメッセージを受け取っているようです。

花の水替え (日常生活の練習)



個別活動 モンテッソーリ活動

大好きお仕事

二歳のモンテッソーリ活動



トレー付きの箱とボール箱の穴からボールを入れると、下のトレーに出てきます。目と手の協応の発達、集中力を養うとともに、視界から消えたものが再び現れることで、物の永続性の認識を助けます。



鏡
鏡に映った自分の動きを確認したり、他社の動きを確認したりして自己認識を促します。自分の顔や身体のパーツの動かし方を理解し、表情も豊かになります。

1歳のモンテッソーリ活動



花とストロー

毛糸の紐に、短く切ったストローと、穴の空いた花型の紙を通していきます。それぞれ同じ数が入れ物に入っており、交互に通すことを経験します。



葉をふく

濡れたスポンジで葉の表面を拭き取ります。きれいにするこ、植物への興味や親しみを深めていきます。葉を片手で支えながら、ほこりを拭き取る方法を体験します。

プライマリーのモンテッソーリ活動

子ども達は日々の生活の中でたくさんの「形」に出会います。モンテッソーリの感覚教具の中に「幾何たんすとカード」という活動があります。6段のつまみがついた引き出しに、「円」、「三角形」、「四角形」、「多角形」などの幾何図形の木枠と、そこにはめ込む図形の木型が分類されて入っています。

子ども達が手指でその木枠の図形の輪郭を実際になぞったり、はめたりすることで、目と手を使って直線や曲線、角度など図形に関する感覚を磨いていきます。カードと木型を合わせる活動では、ぬりつぶし、太線、細線と少しずつ図形が抽象化していきますが、繰り返し活動する中で、形の名前を聞くだけで、見なくても形をイメージすることができるようになっていきます。お部屋にある“テーブルの形”や“お皿の形”を見たり、キャンプで使う“テントの形”など、形の発見をして楽しい会話が聞かれます。

きか 幾何たんすとカード (感覚教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大好きお仕事

二ドのモンテッソーリ活動



ステア

両端に3段ずつ段差があり、昇り降りを楽しめます。ハイハイ、つかまり立ち、伝い歩きを促すとともに、段差での身体の使い方も身につけていきます。



半開きの箱

取っ手のついた引き出しをつまむと、半開きになります。中にはボールや具体物など魅力的なものが入っていて開けてみたくになります。目と手の協応を促します。

I Cのモンテッソーリ活動



ねじ回し

てんとう虫の模様になっているネジをそれぞれの穴へ回して入れる活動です。目と手の協応、手首の動かさを促します。回して入れたり、外したりと繰り返し取り組んでいます。



シール貼り

丸い枠線の中にシールを貼っていくお仕事です。始めは台紙からシールをはがすところから、そして自分の好きなどところに貼り、それが徐々に枠線の中に貼ることができるようになっていきます。

プライマリーのモンテッソーリ活動

今日は黄色バッチさんが楽しんでいる「数の記憶あそび」というお仕事を紹介したいと思います。道具は0～10までの数字カードと、蓋つきの入れ物に入った、55個のコマ。ルールは、じゃんけんで勝った人から、数字カードを引き、先ず自分だけで確認します。次に一巡したら、カードに相当する数のコマを取っていきます。この時「自分の数は何だったかな？」とカードを見返したくなったり、0が出た時はコマを取れませんから、ポーカーフェイスでがまんしたりと、なかなか辛抱がいらいます。全員が取り終えたら、最初の人からカードを見せて「私のカードは〇〇でした」と発表、皆で声を合わせて数えます。0～10までの数をよく知っている黄色バッチさんですが、自分の数を反芻しつつ「どうぞ」と言葉を添えて次の人にカードの入れ物を回す、自信を持ってコマを取る、気後れせずに発表する、となると、子ども達はドキドキ。小さな緊張がこちらにも伝わってきます。友達同士で楽しみながら、それぞれの心の成長が垣間見られる「数」のお仕事です。

数の記憶あそび (数教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大好きお仕事

二歳のモンテッソーリ活動



縦型ボール落とし

大きな箱の上の穴にボールを落とすと、中のスロープをボールがゆっくり転がっていきます。じっと目で追いかけて、一度消えたボールが穴に下のコトンと出てくるのを予想して待っている様子が見られます。



掛けがね

引っかける、引っかけられるがペアになっており、開け閉めの違う手首の動きなど色々な手の動きを使って開けます。中には動物や植物の写真が現れ、何度も開け閉めを繰り返します。自分で開けるということが、自立につながります。

1歳のモンテッソーリ活動



あけうつし(スプーン)

スプーンを使って、ビーズをトレーの仕切りの中に移すおしごとです。スプーンですくう際や移す際の手首、腕の動かしを促します。ビーズの色も綺麗で人気の活動です。



イーゼル

イーゼルに画用紙をつけて、クレヨンで自由に描く活動です。指先だけでなく全身を使っていきます。今は黒い紙に白いクレヨンでコントラストを楽しみ繰り返し描く姿が見られています。

プライマリーのモンテッソーリ活動

子どもたちが好きな事の一つに、「数を数える」ことがあります。最初は自分の指を折りながら、やがては気付くといろいろな物の数を数える姿をよく目にしますね。おしごとの中にも、子どもたちが「かぞえたい！」と夢中にさせる教具があります。これまで度々手にしていた1000のビーズです。それは1000個のビーズから成る立方体ですので、全てを数えるにはなかなか困難です。「本当に1000個あるかどうか実際に数えてみたい」という欲求を実現させてくれるのが、「1000のくさり」という活動です。1000個のビーズから成る立方体は、一本の長い直線状に形を変えて、ビーズ一粒ずつ1000個つながった教具を使います。ビーズが1000個並んだ一本線を目にすると「1000ってこんなに長いんだ」と感覚的に実感し、数える意欲が増していきます。大人からは困難にも思えますが、すでに知っている「1～9」の繰り返しの応用なので、数えることを楽しむうちに集中し、どんどん自分の世界に入り夢中になります。「数える」という単純な活動は子どもたちの心に安らぎを与え、最後の1000まで数え終えたときには「大きなことを成し遂げた」というこの上ない喜びを静かに実感します。

1000のくさり (数教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



開閉

家にある身近なもので、開け閉めできるものがニドのお部屋に置いてあります。ポーチのファスナーや茶筒のふたなど、開けたり閉めたりを楽しみながら、自立への1歩を踏み出しています。



キオスクとバー

立つ、歩く能力を援助し、自立を助けます。自分で出来る喜びを味わい、自信へと繋がっていきます。

I Cのモンテッソーリ活動



着衣枠 (マジックテープ)

左右に開いた布の中央にある、テープを外し、またつけあわせませす。指先を使い、自分で靴の着脱の練習ができるお仕事です。



着衣枠(ファスナー)

左右に開いた布の中央にある、テープを外し、またつけあわせませす。指先を使い、自分で靴の着脱の練習ができるお仕事です。

プライマリーのモンテッソーリ活動

今日は夏の間、子ども達が繰り返し遊んだ『銀行ごっこ』をご紹介します。ごっこ遊びの子ども役割は、銀行さんと2人のお客さん。先ず数字カード(小)のラックから、1~1000各位のカードを1枚ずつ取ります。例えば一人は3526を、もう一人は2361を取り、それぞれのお盆に入れ、銀行に行きます。そして銀行役の子どもに「1のビーズ6個下さい」とセリフを言って、1000の位まで順に数字カード(小)に相当するビーズをもらいます。次に風呂敷を広げ、2人分の銀行からもらったビーズをのせ、包みます。風呂敷の中には3526+2361のビーズが入っているわけです。子ども達は膨らんだ風呂敷包みを代わる代わる持ち上げて、なんとも嬉しそう。手ごたえを確かめたら、今度は結び目をほどこき、1の位からビーズの合計を数え、相当する数字カード(大)を取りに行きます。4桁の大きなカードが足し算の答え。数字カードやビーズで合わせると、前よりも大きな数になる足し算のルールが面白い様子で、答えが出るとすぐに「もう1度やろう!」と言う声が上がります。『銀行ごっこ』では、10進法の概念を知ることさることながら、友達同士のやりとりや、目下の子どもが仲間入りした時の伝え方や手加減など、相手への気遣いと協力が要ります。子ども達の心の成長が垣間見られるお仕事です。

銀行ごっこ (数教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大好きお仕事

ニドのモンテッソーリ活動



ペグボックス

トレーに置いてある3色のペグを小さな穴に入れます。よく見て、入れる・抜くという手の動きを繰り返します。目と手の協応を促し、入れる・抜くという動きの機会を与えます。



立方体落とし

立方体と扉が付いた箱があります。箱の穴に立方体の形を合わせ落とし、扉を開けると円柱が見えます。目と手の協応を促す活動です。

ICのモンテッソーリ活動



テーブルを運ぶ

お友達と協力しテーブルを持ち、机の脚を静かにおろすお仕事です。粗大運動により体全体の運動発達を促します。



のり貼り

円、三角、四角などの紙に筆を使ってのりを塗り、形に合わせて貼るお仕事です。とても集中する姿が見られます。

プライマリーのモンテッソーリ活動

言語教育の活動の中には「ちいさいかご」というシリーズが3種類あります。今回はその1つ目の活動「ちいさいかご1」のご紹介をします。

かごの中には数枚のカードが準備されています。「えんぴつ」「ばけつ」などお部屋にある物の名前が一枚ごとに書かれています。子どもたちはカードの文字を読み、その意味を理解して、対象となる物を自分のじゅうたんに運んでいきます。カードには「持ってこられる物」のみが書かれています。それが「ちいさいかご1」の大切なポイントとなります。

子どもたちは期待を込めた輝くような表情で次のカードをめくっていきます。そこに書かれた文字をたどたどしくも一生懸命に言葉にしなが、自信をもって運んでいきます。やがてじゅうたんの上は身の回りにある物で一杯に埋め尽くされていき、子どもたちの心も満たされて活動を終えます。

「ちいさいかご1」は、言語教育の活動では「読む」に属します。「読む」はその前段階の「書く」よりも困難性を伴い、知性を必要とします。文字を口にするだけではなく、その意味を理解することによってはじめて成り立ちます。また抑揚も正確に読めるようになると「あめ(雨)」と「あめ(飴)」、「かき(牡蠣)」と「かき(柿)」など、言葉の持つ楽しさも知ることが出来ますね。

ちいさいかご1 (言語教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き お 仕 事

二歳のモンテッソーリ活動



円盤落とし

蓋の部分に貯金箱のような穴の開いた箱に、円盤を1枚ずつ入れていきます。親指と他の4本の指で挟むことを促します。



楽器

クラッカーやカスタネットなど、子どもが演奏できるような楽器が用意されています。音を確かめたり、歌に合わせて楽しんでいます。

1歳のモンテッソーリ活動



パズル

2～3個のピースのパズルから、形が同じで大きさが変化するものなど、形と輪郭の認識を発達させます。



植物の水やり

身の周りの植物に、じょうろで水をあげます。自立性の発達を援助し、知性・意志・手の動きの統合をもたらします。

プライマリーのモンテッソーリ活動

幾何図形重ねというお仕事があります。長方形の木箱の中に、赤・黄色・青の3色の各色10枚のプラスチック製の平面図形が入っています。正方形が入っている木箱には、1辺が1cmから10cmまでの10枚の正方形が3色分準備されています。同じように正方形の他に、円、正三角形が入った箱があります。子どもたちはこれらを使って自由に形作りに取り組みます。正方形10枚を順に横に並べて、桃色の塔が倒れた形を作ってみたり、大きいものから小さいものを順に上に重ねてみて、桃色の塔を上から見た形と同じだと発見したり、探求を存分に楽しみます。色を混ぜたり、形を混ぜたりすることも自由で、シンプルな3図形でできる幾何図形の可能性や法則性などを、試しながら経験します。こうして平面図形に慣れ親しみ、装飾的に図形を作り出したり、パターンを自分で考え、後に絵を描くなどの芸術活動に繋がっていくことにもなっていくのでしょう。感覚教育から数教育へのかけ橋の活動です。

幾何図形重ね (感覚教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大好きお仕事

ニドのモンテッソーリ活動



フックかけ

ひも穴の付いたどんぐりのマスコットをフックにかけていく活動です。裏にはマジックテープが付いており、貼り付けることもできます。かける、外す、貼り付ける活動を通し、自立への一歩を踏み出します。



ボールを押し入れる箱

手のひらを使ってボールを穴に押し入れる活動です。穴にスポンジが付いているため、手で力を加える事によってボールが落ちるようになっています。目と手の協応や、両手を使った作業を促します。

I Cのモンテッソーリ活動



はさみで切る

細長い紙をはさみで切ります。はさみを安全に使えるように集中して取り組む活動です。切れたときに紙が落ち、自信に満ちた表情が見られます。



あけうつし(トンク)

トンクを使って、小さなものを掴み、トレーの仕切りの中に移すお仕事です。トンクで挟む際の指の力加減、移す際の手首、腕の動かしを促します。

プライマリーのモンテッソーリ活動

「紙にのりをつけて貼る」という、とてもシンプルな活動でありながら、完成した作品は様々な幾何学の形で色鮮やかに仕上がり、年齢問わず子どもたちが大好きなお仕事です。面白いことに、ここでもモンテッソーリの活動ならではの楽しい道具が登場します。ちょうど良い程度ののりが入った小さな容器と、子どもの手に見合う大きさの小さな筆です。私たち大人から見ると、市販ののりを使うとより手軽に貼ることができるので、このような道具を使うことは少し不思議な気もしますが、子どもたちはむしろ「筆でのりをつける」という工程を楽しむように、一筆一筆、丁寧に筆を動かしながら真剣な表情で取り組む姿を目にします。

このような楽しい活動の中にも、モンテッソーリ教育ならではの大切な目的が準備されています。「のりはり」というシンプルな活動を通して、たとえば、細く小さな筆を持つ指先を洗練させることや、紙からはみ出ないように慎重に手首を動かすなどの運動を調整すること、また、そのための心の静けさを保つ集中力を養うことも含みます。子どもたちは、ただただ夢中になって目の前のお仕事を一生懸命に取り組む一方で、実は、生きていくための力をしっかりと身につけていくことができるのです。毎日の活動が「宝物」の時間ですね。

のりはり (日常生活)



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き お 仕 事

ニドのモンテッソーリ活動



絵本：

繰り返しの言葉や色のはっきりしたものを好み、大人の口の動きをよく観察したりして、発声の楽しさを味わいます。



円形台とサイズの異なるリング：

リングの大きさが4つとも違い、大きいリングから順に中央の棒に通していきます。1つずつリングが棒に通り、徐々に高くなる事が嬉しくて、何度も繰り返す姿が見られています。握る動きが洗練され、目と手の協応の発達を援助します。

I Cのモンテッソーリ活動



ひも通し

円形の厚手のフェルト素材に空いたいくつもの小さな穴に、ひもを自由に通す活動です。通していくなかで見える部分と見えない部分があり、向きを変えながら集中して取り組む姿が見られます。



楽器

かごに数種類の楽器を入れて紹介しています。名称とともに、鳴らし方を知ったり自分で自由に鳴らしてその音や体感を楽しんだりしています。

プライマリーのモンテッソーリ活動

「きってあそび」という少し聞きなれないような名前のお仕事があります。

これは、切手のような形をした小さな木製のコマを使って四則計算をする「数」のお仕事です。計算、と言っても、正しい解を出す練習をする、というような堅苦しいものではなく、魅力的な色つきのコマを手で動かしながら、足したり、引いたりといった数の世界を探索する活動です。

以前「銀行ごっこ」というお仕事をご紹介しました。金色のビーズを使って、2-3人のグループで足し算などを行う活動なのですが、この「きってあそび」では、コマを使って1人で行います。金色のビーズは、位によって大きさが異なり、数量の違いを体感できる教具でしたが、「きってあそび」で使うコマは、全て同じ切手サイズの木片で、ただ各位毎に色が違い、1,10,100,1000と白抜きの数字が書いてあります。子ども達は色と数字を見て数量の違いをイメージし数进行操作します。例えば、 $(1,232+4,354=)$ などの問題からはじめ、繰り上がり・繰り下がりのあるもの、最後は割り算に至るまで、この切手を使って答えを導き出すことができます。1が10集まると次の10の位の1になるなど、コマを慎重に数え、綺麗に並べるなどの操作が必要で、自然と集中して活動するようになります。ここでは正解することが目的でなく、手を動かし没頭しながら足したり、引いたり、分けたり、ということの意味を1人の世界の中で楽しみます。

「切手あそび」 (数教育)



個別活動 モンテッソーリ活動

大 好 き お 仕 事

二ドのモンテッソーリ活動



パズル
パズルのピースの持ち手を
持ちフレームの中に入れます。
指でつまむという動き
の練習になり、また形を認
識して同じ場所に戻すので
記憶と判断力を促します。



引き出し付きの箱とボール
穴からボールを入れ、引き出
しを開けてボールを取り出
します。引く、戻す事にも興
味を示し、繰り返し行う姿が
見られています。

I Cのモンテッソーリ活動



野菜をあらう

スポンジを使い水で
洗います。ちょっと特別
な気分で、真剣そのもの。
本物の野菜にふれ、五
感を使って、知性を広げ、
自立心を養います。



具体物と絵カード

物の名称を伝え、具
体物（立体）と絵カ
ード（平面）を一致
させることを楽しみ
ながら、それらが同
じものを表している
ことを認識してい
きます。

子どもの豊かな言語を導く、人
気のお仕事です。

プライマリーのモンテッソーリ活動

今月は、もうすぐ小学生になる、青バッチさんのお仕事をご紹介します。
毎朝、青バッチさんは、手掛けているいくつかのお仕事、「世界地図」「巻き数字」「日本地図」「国旗」「恐竜の時代」の中から、その日すすめようと思うものを選びます。用意も全部自分で。例えば「世界地図の海洋を塗る」のであれば、まず机に新聞紙を広げ、エプロンをかけ、絵具や筆などの道具を作業しやすいように考えて並べます。ジグザグに入り組んだ陸と海の境目は、慎重に筆をすすめ、「この辺りは深い海だな、」と青色の濃さを塗り分け、工夫する様子が見られます。片づけも、次の人が気持ちよく使えるように元に戻して行きます。仕上がった6枚の大陸の地図は、とじて、1冊の本に仕上げます。これまで練習してきた「縫いさし」のお仕事の要領で、目打ちで穴をあけ、重なった紙を、カいっばい縫いとじて行く姿は何とも頼もしいものです。さて、「6つの大陸の地図帳」が完成した時の、子どもの心持はどんなでしょう。その晴れやかな表情から、やり遂げた人にしか分からない手応えを感じているのでは、と想像しています。

世界地図 (文化)

